

## VIII-1

## 多発性骨髄腫における顎骨壊死 (ONJ) 4 症例の背景検討

竹之内礼子<sup>1</sup>、寺迫桐子<sup>1</sup>、川畑公人<sup>1</sup>、奥田慎也<sup>1</sup>、平井理泉<sup>1</sup>、若林 睦<sup>2</sup>、谷村 聡<sup>1</sup>、  
田中 勝<sup>1</sup>、萩原将太郎<sup>1</sup>、三輪哲義<sup>1</sup>

国立国際医療センター血液内科<sup>1</sup>、研究所細胞組織再生医学研究部<sup>2</sup>

(緒言)骨髄腫<MM>の骨病変対策薬の bisphosphonate<BP>は顎骨壊死(ONJ)の一因とされている。当科 ONJ 4 例を検討した。(症例 1)66 歳女、BJP 型、D-S 病期 A。2000 年 4 月 MM 診断、病期へ移行後 decadron&BP 開始、2004 年 6 月 ONJ 発症。BP 投与 50 ヶ月後(pamidronate<PMD> 31 ヶ月+incadronate<ICD>19 ヶ月)。(症例 2)67 歳女、BJP 型、D-S 病期 A。2000 年 10 月 MM 診断(CD13+, 核型 13q-)し VAD 後 CY 等で PBSCH。後に tandemPBSCT 施行、この間 BP 継続。2005 年 12 月 ONJ 発症。BP 投与 63 ヶ月後(PMD41 ヶ月, ICD22 ヶ月)。(症例 3)60 歳男、IgG 型、D-S 病期 A。2003 年 2 月 MM 診断、VAD 後 2004 年 5 月 ONJ 発症。PMD2 年後。(症例 4)67 歳女、IgG 型、D-S 病期 A。1994 年 9 月 MM 診断、感染反復し SCT 未施行。MCNU-VMP MP VAD サリドマイド投与。2002 年 8 月 PMD 開始。2004 年 10 月上顎歯槽骨病変。2006 年 8 月下顎歯槽骨部分喪失。(総括)ONJ 発症は MM 診断後平均 63 ヶ月、BP 開始後平均 52 ヶ月、全例歯科治療歴あり。1 例は Xp 上顎骨に骨髄腫病変あり。MM 治療は VAD 2 例(PBSCT 1 例)、MP 1 例、多レジメン 1 例であった。(考察)4 例と少数だが ONJ 発症背景として BP 長期投与、歯科治療歴等が示唆された。